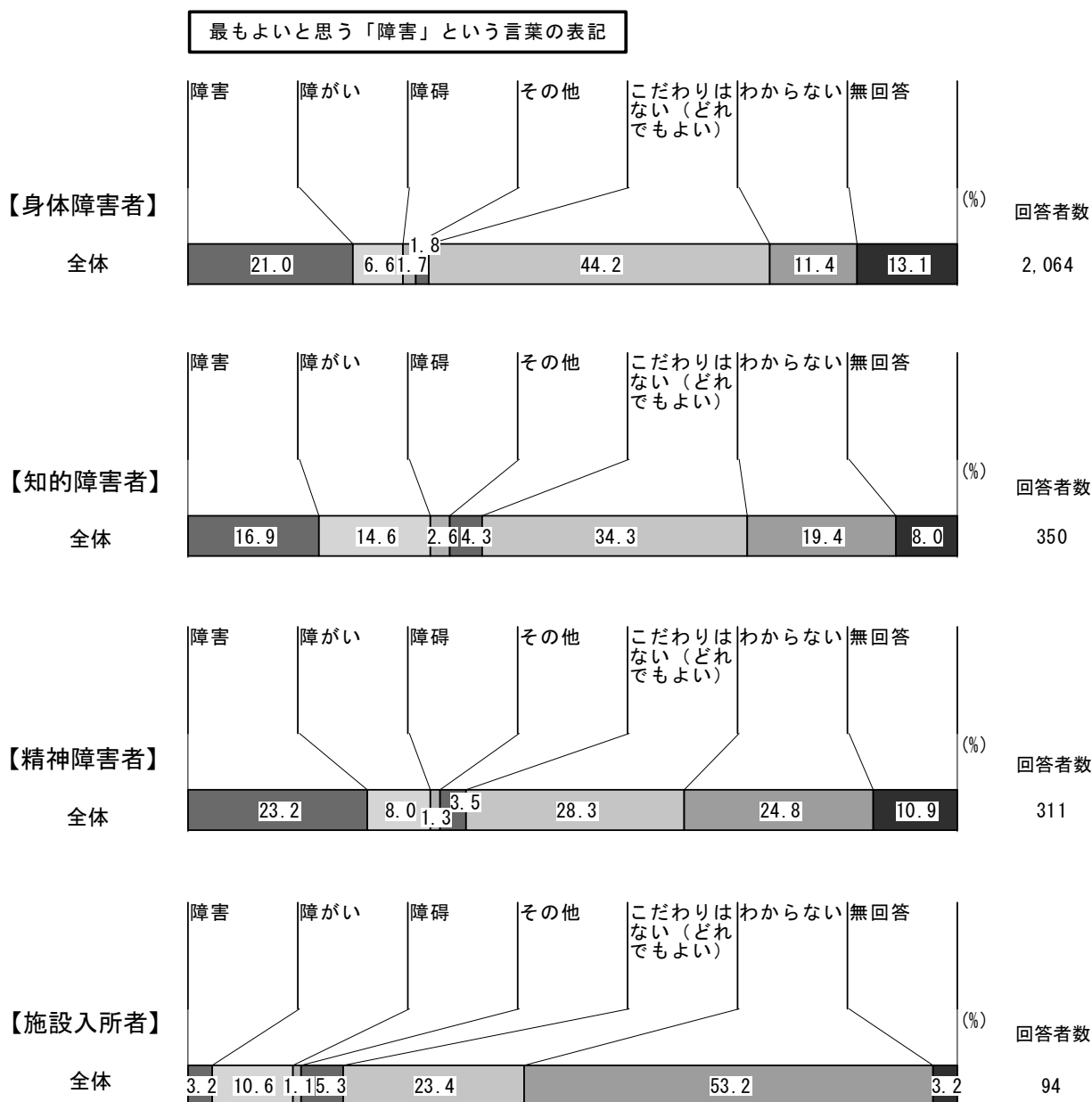


15 障害の表記について

(1) 希望する表記

障害の表記については、いずれの対象者も「こだわりはない(どれでもよい)」とする割合が最も多く、身体障害者で44.2%、知的障害者で34.3%、精神障害者で28.3%、施設入所者で23.4%となっている。「障害」「障碍」「障がい」の表記の中では、身体障害者と精神障害者の2割は「障害」を、知的障害者、施設入所者の1割強は「障がい」を、それぞれあげている。



(2) その表記を希望する理由（複数回答）

前問で選択した“障害”の表記について、その表記を希望する理由では、「表記だけ変えても意味がないから」とする割合がいずれの障害でも最も多い。次いで多いのは、身体障害者、知的障害者では「差別感や不快感を感じないから」、精神障害者では、「見慣れているから」、施設入所者では「差別感や不快感を感じないから」である。

		見慣れているから	わかりやすいから	差別感や不快感を感じないから	本来はそう書くべきだから	表記だけ変えても意味がないから	その他	無回答
身体障害者	(n=2,064)	15.4%	15.2%	17.0%	7.8%	29.4%	1.8%	29.7%
知的障害者	(n=350)	14.3%	11.4%	17.1%	8.3%	30.6%	6.3%	27.7%
精神障害者	(n=311)	13.4%	6.2%	11.8%	4.9%	21.2%	6.5%	45.1%
施設入所者	(n=94)	6.4%	10.6%	12.8%	4.3%	16.0%	5.3%	58.5%